

プログラム番号	06081
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	国立大学法人 総合研究大学院大学 物理科学研究科		
②学長名	小平桂一		
③所在地	〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町上山口字間門1560		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	学務課長	
	担当者氏名	伊東陽子	e-mailアドレス kokusai@soken.ac.jp
	電話・FAX番号	(電話) 046-858-1521, (FAX) 046-858-1541	
⑤ホームページURL	http://www.soken.ac.jp		
⑥大学院在学留学生数	90人(うち、国費留学生 45人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	留学生のサイエンスネットワークプログラム
②プログラムの形態	博士後期課程(3年間)
③実施研究科・専攻	物理科学研究科・核融合科学専攻
	(所在地) 岐阜県土岐市下石町322-6
④連携大学・研究科・専攻名	物理科学研究科・ 構造分子科学専攻、機能分子科学専攻、天文科学専攻、宇宙科学専攻
⑤受入れ学生数	8人(うち研究留学生優先配置人数: 3人) (うち日本人学生数: 2人)
⑥担当教員数	合計 307人(うち専任: 300人、兼任: 7人、非常勤: 0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 物理科学研究科 研究科長 教授
	研究科長名 松岡啓介

【3. プログラムの内容】

○ 開設の趣旨

*国際標準の研究大学院大学において、博士後期課程の留学生教育を実施するとともに、世界各国の修了生を中心とした学術文化交流ネットワークを構築し、地球規模の諸問題の解決にリーダーシップを発揮し貢献する人材を養成する。同時に、本プログラムに参画する日本人学生に対してその国際的な教育環境を活用することにより、国際的な通用性の向上を図る。

○ 内容及び特色

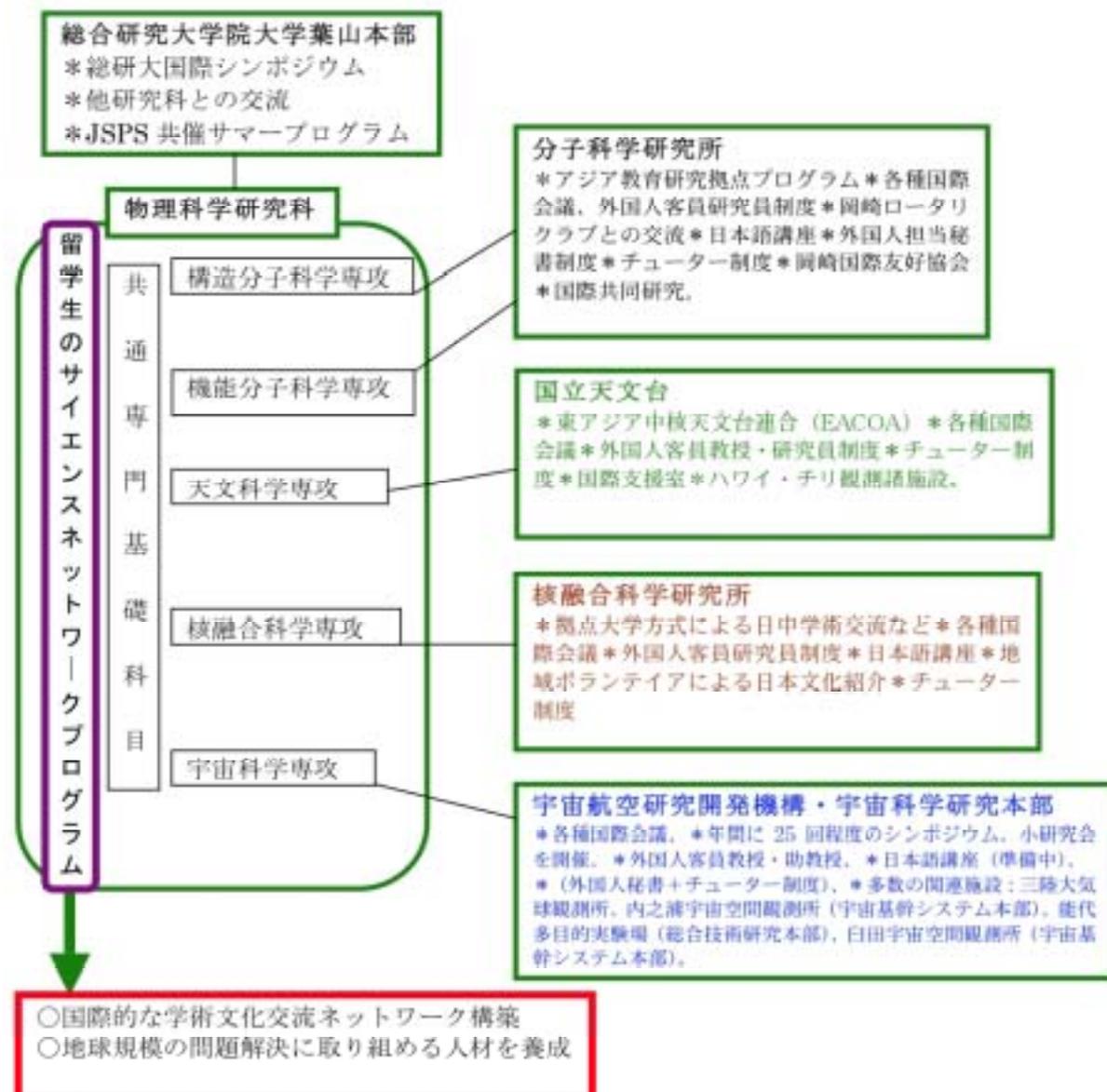
(1) 国際競争力の強化が期待されるプログラムである点：

* 国際的な研究機関において博士課程の教育を施す。留学生は、物理科学研究科 5 専攻の分野横断的な研究環境下での最先端研究への参加により高度な知的環境を享受できる。

(2) 人的ネットワークの形成に有効である点：

* 物理科学研究科 5 専攻の基盤機関は、下記に示す各種国際交流プログラムを実施しており、相手国の一流の研究者や博士課程学生のレベルでの人的ネットワークの形成にそれらを活用出来る。

* 本学の特徴の一つに、「国際色豊かな研究環境の中での活動」があり、JSPS と共催のサマープログラム等を実施することにより、グローバルネットワークを広げることが可能である。これらのネットワークを通して修了後の進路探しを手伝う他、国際シンポジウム等で修了生を「里帰り」させ、在校生との交流を深め、在校生が卒業後の進路についての情報を得られるよう便宜を図る。



(3) 留学生に配慮したプログラムである点：

- * それぞれの専攻は、国際レベルの研究機関に設置され、国際的な雰囲気の研究環境の中で、英語による研究指導を行う。放射光装置、スーパーコンピュータ、大型ヘリカル装置（LHD）、すばる望遠鏡や ALMA 電波望遠鏡（建設中）など、いずれも世界最先端の研究設備を設置しており、留学生はこれらを見ずから使用して最先端の研究を行うことができる。
- * それぞれの専攻において、外国人を専門に世話をする国際支援のための組織やスタッフが措置されているなど、生活面での世話を受けられるシステムを整備している。日本人学生や研究員などをチューターとして配置し、研究面および生活面においてサポートする体制を確立している。

(4) 大学の国際化の促進に繋がるプログラムである点：

- * 総研大国際シンポジウムや大学主催の国際会議を国内外で開催している。留学生がこの国際会議において積極的に討論を行うことや運営委員として主体的に参加することを通して、大学の国際化促進に寄与するとともに、留学生自身の人的ネットワーク作りを行う。
- * 私費留学生も本プログラムに参加するが、RA 経費（約 80 万円 /年）の他、各種の民間奨学金を斡旋することにより彼等を経済的に支援し、国費留学生との差がそれほど開かないよう配慮する。
- * 本プログラムに参加する日本人学生は、国費、私費を問わず外国人学生との交流を深めることにより国際性を向上させ、その結果、他の日本人学生の国際性の向上にも寄与することが十分考えられる。その結果、大学全体の国際化が促進される。

○ 教育・指導体制

- * 主任指導教員を中心とした論文指導に加え、専攻の教員集団による指導や支援体制を確立している。第一線で活躍する研究者と身近に接することにより、研究に対する心構えや方法等が自然と身に付くことも期待される。
- * 専攻をまたがった講義「共通専門基礎科目」等により、地球規模の諸問題の解決に取り組める柔軟な思考力と広い視野を持った人材を育成する体制が出来上がっている。研究所内の日本語講座、地域ボランティアによる日本語講座や日本文化の紹介等きめ細かな指導を実施している。

○ 使用言語

- * 日常生活では日本語または英語が主である。外国人が居る場合は、グループのミーティング等および授業は主として英語で行われる。

○ 募集方法、募集対象集団、学内選考方法

- * HP や開発中の WebELS を活用する。募集対象の国については特に問わないが、日本に近い地域としてのアジア諸国の学生を歓迎する。
- * 選考は、各専攻からの推薦を受け、専攻長会議において審議・調整・決定までを一貫して行う。

○ 修了後に想定される進路、修了者に期待できる効果およびフォローアップ体制

- * 入学時から母国もしくは日本での就職等の可能性を明確にすると共に、個々の留学生の能力及び国の情勢を考慮し、進路を明確にした上で指導分野を決定する。修了者にはアジア地域を中心とした学術文化交流ネットワークの構築を期待する。そのために、修了生の追跡調査を継続するとともに、修了生を定期的に「里帰り」させ、講演会や意見交換会を実施する。

○ 本プログラムの点検・評価の体制

- * 留学生の学位授与率の把握、修了生の就職先と職位などを、インターネットを活用したアンケート調査等により、定期的、定量的に把握するだけでなく、修了生から選抜した評価委員による定性的な面における外部評価を行う。

○ その他の特記事項

- * 本学は、国際的な研究機関である基盤機関における博士課程の教育と葉山本部による基盤機関の枠を超えた全学的な教育プログラムを通じた視野の広い研究者の育成という特色を踏まえ、研究科を超え、分野も異なる研究者及び学生との交流を通じて、世界レベルの留学生交流が可能となるという点に特色を持つ。キャンパスは、葉山本部と各基盤機関に分散しているため、e-learningによるシステムを鋭意開発中であり、国際的なサイエンスネットワークの構築にも有用となることが期待される。